



【夏休みの図書室について】^{じどう}児童のみなさんと^{ほごしゃ}保護者の方へ



今年の夏休みは4日間開いています！

日にち：7月23日（水）、24日（木）、



8月21日（木）、22日（金）

時間：午前9時～11時まで（午後は開いていません）



～おねがい～

- ・図書室に来る時は、お家の人に伝えてから来ましょう。
- ・通学路^{つうがくろ}を^{きゅうしよくしつ}通って、北門（給食室の横）から入りましょう。
（他の門は閉まっています）
- ・通学する時は、ぼうしをかぶってきてください。
- ・上ぐつ^{わす}を^も忘れずに持ってきてください。
- ・暑い日が続くので、水とう^{みづ}を持って来てください。図書室の中でお茶^{あつ}を飲んでもらって良いです。本がよごれないように気をつけて飲みましょう。
- ・図書室では、本の貸出^{かしだし}、返きやく^{よやく}、予約^{よやく}、読書^{よみかき}ができます。貸出で^{かしだ}きるのは4冊^{さつ}までです。
- ・図書室にいる時間は1時間以内にしましょう。
- ・夏休み前と、7月24日（木）までに借りた本は、8月27日（水）～8月29日（金）の間に返しましょう。
- ・8月21日（木）と、8月22日（金）に借りた本は、2週間後までに返しましょう。



八幡市立八幡小学校 図書室

本のおたより

（4年生～6年生用）



令和7年7月7日夏号



読書感想文^{かんそう}にいかがでしょうか？



もうすぐ夏休みが始まりますね。楽しいことも多いけれど…夏休みの宿題^{しゅくだい}の読書感想文^{かんそう}を書くのは苦手な人も多いのではないのでしょうか？そこで、今回の図書室だよりでは、読書感想文^{かんそう}を書きやすい本を紹介^{しょうかい}したいと思います。ぜひ、自分の好きな本をみつけて借りてみてくださいね。そして、自分の感じたことや、考えたことを、文章^{ぶんしょう}で表現^{ひょうげん}してみましょう。書いてみて初めて自分の気持ちに気づくかもしれませんよ。

物語『セイギのミカタ』^{せいき}佐藤まどか/作 ^{いしやま}イシヤマアズサ/絵 フレーベル館

本当のセイギってなんだろう？



小学4年生の木下守^{きのしたまもる}は、目立ったり、はずかしくなったりすると、すぐに顔が赤くなります。このことを4年生の初日から、クラスの人気者の大我^{たいが}にからかわれてしまいます。

すると、「やめろよ!」と、後ろから声が聞こえ、近づいてきたのは周一^{しゅういち}でした。

正義感^{せいぎかん}の強い周一^{しゅういち}は、もめごとが起きると、いつも止めに入ります。目立ちたくない守^{まもる}は、周一^{しゅういち}が止めに入ることによって、周りから余計に注目されてしまうので、そっとしておいてほしいと思っていましたが、そのことを直接周一^{しゅういち}に伝えることはできませんでした。

そんな時に、周り^{まわ}に流されずに、自分の意見^{いけん}をはっきりと言うひとみが味方^{みかた}になってくれたことをきっかけに仲良くなり、ひとみから刺激^{しげき}を受けて、守^{まもる}は成長^{せいちょう}していきます。

自分で考えて、勇気^{ゆうき}を出して、相手^{あいて}に自分の思いを伝えることで、理解^{りかい}してもらえることもあり、その後は、温かい世界^{あたたか}が待っている、そんなことを感じさせてくれる物語^{ものがたり}です。

物語『バラクラバ・ボーイ』

ジェニー・ロブソン/作 もりうちすみこ/訳 黒須高嶺/絵 文研出版



クラスみんなで出した答えとは！？

4年生のクラスに転入生トミー・マッカダムがやってきました。その転入生にクラスの子みんなはしょうげきを受けます。なぜなら、バラクラバと呼ばれる目の部分だけが開いた顔全体をおおうニットぼうをかぶっていたからです。

その日から、クラスの子みんなは、トミーがなぜバラクラバをかぶっているのか理由を聞き出そうとするのですが、トミーはなかなか教えてくれません。

そんな時に、トミーが上級生に連れられ、バラクラバを無理矢理ぬがされそうになるという事件が起きました。その事件以降、クラスの子みんなが、トミーの秘密を探ることはなくなりました。その代わりに、トミーを思いやったある作戦を、実行したのです。おどろきのラストが待っている、今年度の3・4年生読書感想文課題図書です。

実話『とびたて！みんなのドラゴン』 オザワ部長/著 岩崎書店

本当にあった感動の実話

福岡県北九州市立日明小学校合唱部が、合唱コンクールで、まだ1度も出場出来たことがない全国大会出場を目指し、努力する本当にあった実話です。

顧問の竹永先生は、筋肉がだんだんやせていくALSという難病を抱えていました。しかし、竹永先生は、病気であっても、不幸ではなく、これからの人生にワクワクしていると語るのです。

そんな前向きな竹永先生の姿を見て、合唱部のメンバーのマナミは勇気をもらいます。元々、内気で声の小さいマナミは、合唱部のコンサートを聞いた時に、部員達が楽しそうに歌う姿に目をうばわれ、自分もあんな風に歌えるようになりたい、自分を変えたいと思い、入部を決意しました。

合唱部の部員の気持ち上手くまとまらなかったり、リズムや音程の難しい曲に挑戦し、苦戦したりする様子や、先生も部員も成長していく様子が、ありのままに書かれているからこそ胸を打つ感動作であり、今年度の5・6年生読書感想文課題図書です。



物語『わたしの苦手なあの子』 朝比奈蓉子/作 酒井以/絵 ポプラ社



今年の夏休みの宿題は苦手なあの子と仲良くなること

6年生のクラスに転校してきた本間リサ。クラスの子に話しかけられても、そっけない態度でいるので、すぐに1人になってしまいます。しかし、リサがそっけない態度を取るのにはある理由があったのです。

そんなリサがかかえている秘密を、同じクラスのミヒロはひょんなことから知ってしまいます。2人だけの秘密を共有したことで、リサとミヒロは急接近します。

その夏休み、先生から宿題として出されたのは、苦手なものを1つ克服することでした。そこで、ミヒロは、苦手なリサを克服し、仲良くなろうと決意しました。

自分を変えたい女の子達の友情と成長の物語です。

物語『ぼくの色、見つけた！』 志津栄子/作 末山りん/訳 講談社

一筋の光を見つける男の子の物語

生まれつきみんなと同じようには色が見えていない信太朗。初めて自分は人と目の見え方がちがうと自覚したのは、肉が焼けたタイミングが分からない時でした。他の人には簡単に見分けがつくのに、自分には分からないことから、色覚障害だと発覚しました。

母親からは「かわいそう」と言われるし、クラスの友達からは、図工の時間に口びるを茶色にぬったことをからかわれ、自信を失い、なやんでしまいます。

そんな時に、あるきっかけになる出来事があり、他の人には見えていない、自分にしか見えない色があることを発見するのです。担任の先生も、そんな信太朗に向き合ってくれる先生だったこともあり、自分の目へのとらえ方が変わっていき、新しい挑戦を始めることができました。なやみのある人に読んでほしい前向きになる今年度の5・6年生読書感想文課題図書です。

